

「書くこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名・教材名

第2学年 組み立てを考えて書き、知らせよう 「こんなもの、見つけたよ」

② 単元のねらい

【思考力・判断力・表現力等】

◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(B書くことイ)

◎文章に対する感想を伝え合うことができる。(B書くことオ)

○文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。

(B書くことウ)

【知識及び技能】

◎句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。 ((1)ウ)

③ 指導の工夫

単元の出口として、学級の仲間や個人で設定した相手に、自身が書いた文章を読んで見つけたものを探してもらうという言語活動を設定しています。文章を書いて終わりではなく、自分が見つけたものを見もらう時間を設定することで、より分かりやすい文章を書こうという意識を高めることをねらいました。

情報の収集の段階では、仲間と質問形式の対話を行うことで、書きたいことをより具体的に引き出しました。また、毎時間タブレット端末で撮影した写真を活用し、書いた文章と書く対象を比較しながら、伝わりやすい文章を書くことができるようにしました。

推敲や共有の場では、SKYMENUの発表ノートを活用し、書いた文章に仲間からのアドバイスや評価を書き込んでもらうことで、修正や振り返りに客観性をもたせました。

仲間に自分が見つけたものを見に行ってもらう時間には、SKYMENUの発表ノートの機能にあるグループワークを活用し、学級全員の文章をいつでも見られるようにし、たくさんの仲間が見つけたものを見に行くことができるようにしました。

④ 活用したツール

- ・SKYMENU「発表ノート」

書いた文章を写真で撮影し、発表ノートに貼り付け、グループワークを行うことで、同じグループの仲間とノートを共有する。それぞれの端末で書き込んだ内容は、リアルタイムで自身の端末にも反映される。

⑤ 実践内容

次	時	ねらい	学習過程
第1次	1	学習の見通しをもち、文章の書き方を理解する。	
第2次	2	校内を巡り、おもしろいと感じたものを見付け、伝えたいものを決める。	題材の決定
	3	伝えたいものについてのメモを書く。	情報の収集
	4	メモを基に、様子がより伝わるように言葉を書き足し、詳しいメモにする。	情報の収集・内容の検討
	5	「初め」「中」「終わり」の組み立てを理解する。	構成の検討
	6	メモを基に、「初め」「中」「終わり」の組み立てを考え、組み立てメモを作る。	
7	組み立てメモを基に、文章を書く。	考えの形成、記述	
8	書いた文章を読み返して、句読点やかぎを正しく使えているか確かめ、間違いを直す。	推敲	
第3次	9	仲間の文章を読んで、仲間が見つけたものを見に行いく。	共有
	10	仲間の文章を読み、実際に伝えたいものを見たことを基にしながら感想を伝え合い、自分の文章のよさに気付く。	

- ・付箋
- ・ワークシート
- ・タブレット端末で撮影した写真

- ・SKYMENU「発表ノート」
少人数グループでのグループワーク

- ・SKYMENU「発表ノート」
学級全体を一つとしたグループワーク

⑥ 成果と課題(実践する時の留意点など)

○いつでも書きたい対象を見ることができていることで、具体的な情報を引き出すことができていた。

○SKYMENYU「発表ノート」のグループワーク機能を活用することで、より効果的・効率的に推敲や共有を行うことができた。

△児童がSKYMENUの扱いに慣れていないと、操作に時間がかかり、活動時間が少なくなってしまう。そのため、普段から少しずつ使っていく必要がある。

△「タブレットを使うこと」が目的になってしまっている児童が何人かいた。必ず使うというよりも、必要だと感じた時に使うという考え方をさせていく指導が大切である。